

## 2023年度 三つのポリシーのアセスメント結果について（2022年度実績）

### （1）学部

学部のアドミッション・カリキュラム・ディプロマの3つのポリシーに関して、予めアセスメントポリシーで定めた基準に照らし、入試結果や外部アセスメントテスト、GPAや単位修得状況、各種アンケート、進級・卒業判定の結果等、学修成果についての検証をエビデンス（2022年度資料）に基づいて行いました。

入試結果やGPA、進級・卒業率、授業アンケート結果など、設定した基準を概ね満たしており、教育の質を担保できているものと考えております。

卒業予定の4年次生に対して行った「卒業予定者アンケート」においては、「入学してよかった」との回答が約95%と高く、また、卒業後4年目の卒業生に対して行った「卒業生アンケート」では、カリキュラム・教育内容に対する満足度が全ての項目において概ね85%を超え、中でもゼミに関する満足度は95%を超えています。これらの結果から大学に対する満足度は非常に高いといえ、十分に質保証ができていると考えられます。

さらに、TOEIC試験においては目標点数を超えた学生が、前年度と比較して37.5%増と2年連続で上昇しています。また、卒業生が就職した企業を対象に行った「企業アンケート」においては、卒業生に対する満足度が伸びており、大学における教育の効果が社会的にも評価されていることが見て取れます。

今年度の検証結果をもとに、次年度に向けた評価項目並びに測定基準のさらなる見直しを行い、適切なPDCAサイクルの運用を通じて、継続的な改善に取り組んで参ります。

### （2）大学院

大学院においても予め設定したアセスメントポリシーの基準に基づいて検証を行ったところ、入試結果やGPA、修得単位数、授業アンケートの結果など設定した基準を概ね満たしており、目標を達成していると考えております。

「修了予定者アンケート」では、「身についた力」の指標とする3つの力のうち「専門知識の理解力」と「研究する能力」において肯定的意見が100%となっており、このことから、教育の質を保証できていると考えられます。

一方、博士課程後期課程への進学者、入学者が少ないことは長年続く大きな課題であり、同課程の定員充足率並びに博士の学位取得者を増やすことが、大学院教育の充実や質の保証を担保するために必要な要素であると考えております。今後も研究者養成コースの充実、発展に向けて、評価項目や測定基準の見直しと充実を図り、本研究科の教育・研究内容の改善に活かすことを目標に取り組んで参ります。